

カワヒガイ *Sarcocheilichthys variegatus variegatus* (Temminck et Schlegel)

【選定理由】

河川やそれに続く用水路のコンクリート護岸化による生息場所の減少、産卵床となる二枚貝の減少などにより分布域が縮小し、個体数が減少していると推察される。

【形態】

体長約 12cm。体は細長く、吻は短く丸い。体側全体に不規則な雲状斑がある。同属のビワヒガイに似るが、尾柄高は頭長の 49%以上であることから区別できる。

【分布の概要】

【県内の分布】

木曾川・庄内川・矢作川・豊川水系など。

【国内の分布】

濃尾平野、琵琶湖流入河川、京都盆地、山口県を除く山陽地方、九州北西部、長崎県壱岐島。

【世界の分布】

日本固有亜種。

【生息地の環境／生態的特性】

河川の中流から下流の緩流域とそれに続く用水路に生息する。砂底や砂礫底の中層から底層を遊泳する。5～7月に二枚貝の外殻腔内に産卵する(細谷, 2013)。雑食性で水生昆虫や小型巻貝、附着藻類などを食べる(細谷, 2001)。

【現在の生息状況／減少の要因】

愛知県内における既知の生息地数は少ない。河川や用水路のコンクリート護岸化は生息場所を減少させ、産卵床となる二枚貝の減少要因ともなっている。東海地方では非在来のヒガイ属魚類が広く侵入しており、在来個体との交雑の可能性も示されている(鈴木ほか, 2016)。愛知県でも矢作川水系などでビワヒガイの移入が確認されており、競争や交雑の恐れもある。

【保全上の留意点】

河川や用水路のコンクリート護岸化が必要な場合は、生息場所となる砂底や砂礫底の緩流域、ワンドの保全が必要である。また、産卵床となる二枚貝の保全も重要である。

【引用文献】

- 細谷和海, 2001. カワヒガイ. 川那部浩哉・水野信彦・細谷和海(編), 山溪カラー名鑑 日本の淡水魚 改訂版, pp.310-311. 山と溪谷社, 東京.
- 細谷和海, 2013. コイ科. 中坊徹次(編), 日本産魚類検索 全種の同定 第三版, pp.308-327, 1813-1819. 東海大学出版会, 神奈川.
- 鈴木美優・北西 滋・淀 太我・向井貴彦, 2016. 東海地方におけるヒガイ属魚類の遺伝的集団構造と攪乱 魚類学雑誌, 63 (2): 107-118.

【関連文献】

- 駒田格知, 2010. カワヒガイ. 愛知県環境調査センター(編), 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2009-動物編-, p.213. 愛知県環境部自然環境課, 愛知.
- 前畑政善, 2010. カワヒガイ. 環境省自然環境局野生生物課(編), 改訂レッドリスト 付属説明資料 汽水・淡水魚類, p.50. 環境省自然環境局野生生物課, 東京.

(荒尾一樹)